心つながる

やまゆり園遺族、被災地へ

東日本大震災から8年となった被災地で、新たな交流が芽生えた。海老名市のNPO法人「地球のステージ」が宮城県名取市閖上地区で主催した追悼の集いが11日行われ、相模原市の障がい者支援施設「津久井やまゆり園」の殺傷事件で娘を失った遺族が初めて参列した。促したのは、遺族のかかりつけの心療内科医でNPO代表理事の桑山紀彦さん。「つらい境遇の人同士でつながることに意味がある」と背中を押した。【堀和彦】

遺族は閖上中学校で犠牲になった生徒たちの名前が刻まれた慰霊碑を何度もさすっていた＝いずれも宮城県名取市閖上で

東日本大震災8年

桑山さんは国際協力機構（JICA）や外務省と連携しながら国内外の紛争・被災地で心のケアに従事してきた。命の尊さを映像と歌で訴える公演「地球のステージ」は好評で、開催は累計3964回に上る。2011年の東日本大震災で当時開院していた名取市の病院が被災しながら、被災者のトラウマと段階的に向き合う「心理社会的ケア」を実践してきた。「肉親の死は乗り越えられない。でも向き合うことはできる」。診察室で時に涙しながらそう説いたという。今は「語り部」となって過去の離別と向き合う患者も多い。

桑山さんは犠牲者へのメッセージを込めた鳩風船を飛ばし、空を見上げた

16年からは海老名市に移りクリニックを開院。県警を通じ、津久井やまゆり園の殺傷事件で娘を失った遺族を診察するようになった。「私の人生そのもの。全てだった」。ウサギのキャラクター「ミッフィー」と音楽ユニット「いきものがかり」が大好きで、愛嬌を振りまきながら周囲を和ませたという娘を亡くし、喪失感を抱えていた遺族に被災者のことを聞かせた。

自身の患者で、津波で長男公太さん（当時13歳）を失った丹野祐子さんだった。

桑山さんは昨年3月、横浜市内で遺族と丹野さんが面会する機会をつくった。丹野さんは「悲しみでつながるご縁があってもいいんじゃないかな」と声を掛けて固い握手を交わし、遺族は救われた。桑山さんは昨夏、遺族と一緒に日航ジャンボ機墜落事故の現場となった群馬県上野村の「御巣鷹の尾根」を訪れた。遺族は登山口で、次男健さん（当時9歳）を亡くした美谷島邦子さんらに「これからもよろしくね」と迎えられ「ひとりじゃない。同じ思いの人たちがいる」と縁の広がりを心強く感じるようになったのだという。

そして3月11日、遺族は桑山さんとともに被災地に立った。「本当につらい時期に皆さんとの出会いがあった。今日も近くで娘がにっこりほほ笑んでいるはず」。感謝の気持ちをそう述べた。地震発生時刻の午後2時46分に合わせ、雨が上がり太陽の光がわずかに差す空に、鳩風船を放った。風船には「たくさんのつながりができました」とメッセージをしたためた。